第66回日本甲状腺学会学術集会

ランチョンセミナー2

日時・会場

12.8 2023 FRI

12:00-12:50

第2会場

金沢市文化ホール　会議棟
2F　大集会室

甲状腺眼症と抗TSH受容体抗体

座 長　**田上　哲也** 先生
京都医療センター 内分泌・代謝内科 診療科長

演 者　**神前　あい** 先生
オリンピア眼科病院 副院長

本会ランチョンセミナーは整理券制となります。

第66回日本甲状腺学会学術集会　検索

［ 配布日時 ］12 月 8 日（金）7：30 ～ 11：30（※無くなり次第、終了）
［ 配布場所 ］金沢市文化ホール　ホール棟　1F

1）整理券の発行にはネームカードが必要です。おひとり様一枚限り、開催当日分のみの発行となります。
2）整理券の配布は先着順のため、なくなり次第終了させていただきます。
3）配布時間終了後、整理券が残っている場合は、各セミナー会場前で配布します。
4）整理券はセミナー開始 5 分後に無効となります。
5）各セミナー会場には、整理券をお持ちの方から、優先的にご入場いただきます。
6）整理券をお持ちでない場合でも、各セミナーの参加状況により、ご入場いただける場合があります。

共催：第66回日本甲状腺学会学術集会／ヤマサ醤油株式会社

甲状腺眼症と抗TSH受容体抗体

神前　あい　オリンピア眼科病院　副院長

甲状腺眼症の臨床において、眼症の重症度や活動性とTSAbは有意な相関がみられています。我々の施設では、初診時には、球後病変の活動性の指標や今後の眼症悪化の目安としてTSAbを計測しています。また、ステロイドパルス療法の前後では、治療効果の評価や追加治療選択の指標として、そして、内科でのアイソトープ治療前後にも眼症の悪化の指標として、それぞれTSAbを計測してきました。TSAb（EIA法）がバイオセンサTSAbに変更になったことで、測定時間は短くなり、精度も向上していると聞いていますが、眼症の重症例では80000%というようなかなり高い値となる症例もあります。今回、TSAb（EIA法）とバイオセンサTSAbの両方の検査を同一日に施行した甲状腺眼症の症例で、両検査法の相関、甲状腺眼症との関係、ステロイドパルス療法症例における経過など、今までと同様に甲状腺眼症の臨床で使用できるのか検討しましたので報告します。